

被爆74周年原水爆禁止世界大会 一切の戦争を否定し、行動しよう



東京都大田区蒲田
5の10の2
全日本港湾労働組合機関紙
(毎月1日発行)
一部20円(組合員の購読料は組合費の中に含む)
発行責任者
松永英樹



今年も原水禁世界大会が、広島・長崎、そして福島で開催された。全港湾からは数十名が参加をした。近年は、高校生平和大使の活躍など次の世代に拡がる運動の取り組みも注目を集めてきており「被爆地ヒロシマを体験し、憲法を守り、一切の戦争を否定し、二度と悲劇が繰り返されないよう訴え、行動しよう」といったアピールも出され、活況を呈している。全港湾からの参加者の声が寄せられているので、以下に紹介する。

広島大会

二〇一九年八月四日から六日にかけて、大阪支部より三名で原水禁広島大会に参加した。初日、広島平和公園から県立総合体育館まで約一キロメートル程度、シユプレヒコールを高らかにあげながら行進した。県立総合体育館では全世界から集まりし人々と共に「被爆七十四周年原水爆禁止世界大会・広島大会開会総会」に参加した。



平和と核軍縮1
沖縄で何が、起きているのか

二日目は一五会場に分かれ、分散会が開催された。午前、大阪支部三名は「平和と核軍縮・沖縄で何が、起きているのか」に参加した。普段は大阪でも沖縄の現状報告集会などよく分かっているつもりであったが、この分散会では現状報告はもとより、辺野古の埋め立てによる被害を生物学的見地など、変わった

視点での講義があり、興味深いものであった。午後、「話芸で学ぶ、平和と核」に参加した。ここでは被爆した広島・長崎のその後の生活風景を「落語と講談」で学ぶものであった。落語を間近で見聞きしたのは初めてだったので、理解するのに少し戸惑いもあったが、ありとあらゆる工夫により、参加者の関心を引くものを感じ取ることができた。

長崎大会

最終日、今大会のまとめ集が広島県民文化センターで

開催された。開会挨拶、被爆者への黙祷を始め、海外代表挨拶、各分散会の報告、そして特別決議「中距離核戦力（INF）全廃条約失効は許さない」と「ヒロシマ・アビール」が提案された。

二度と戦争をしてはいけない、させてはいけない、その想いを日本が世界中の先頭に立て訴えていくのが、我々今を生きる日本人の使命だと

悪を絶対に許してはいけない。私たちは核と人類は共存できない。核に良い核も悪い核もない」と運動を進めようと呼びかけました。その後、海外からのゲスト、福島からの訴え、長崎からのメッセージ等を聞き初日は閉会しました。



二度と戦争をしてはいけない、させてはいけない、その想いを日本が世界中の先頭に立て訴えていくのが、我々今を生きる日本人の使命だと



核も戦争もない平和な21世紀に!



七月二十七日に福島市の福島県教育会館で行われた、被爆七十四周年原水爆禁止世界大会、福島大会に参加してきました。原水禁も核も戦争も無い社会の実現を目指そうと全国から六二〇人が集まりました。

福島大会

「だ」と決意表明しました。大会基調提起は、大会事務局長の藤本泰成さんが行い、福島原発の現状と課題として避難者の支援、子どもや住民の健康対策、原発の再稼働を許さずエネルギー政策の転換を求めていく」と述べました。



最後に三日間長崎県支部の方々の大変厚いサポートのおかげで本場に助かりました。大変貴重な三日間ありがとうございました。九州地方関係支部 執行委員 伊藤俊明

三日前に渡り、世界中の平和や核兵器廃絶、脱原発等の考えを学習し、世界中がこれを実現するまでこの運動は続けていきたいと強く思いました。

悪を絶対に許してはいけない。私たちは核と人類は共存できない。核に良い核も悪い核もない」と運動を進めようと呼びかけました。その後、海外からのゲスト、福島からの訴え、長崎からのメッセージ等を聞き初日は閉会しました。

最後に三日間長崎県支部の方々の大変厚いサポートのおかげで本場に助かりました。大変貴重な三日間ありがとうございました。九州地方関係支部 執行委員 伊藤俊明

三日前に渡り、世界中の平和や核兵器廃絶、脱原発等の考えを学習し、世界中がこれを実現するまでこの運動は続けていきたいと強く思いました。

三日前に渡り、世界中の平和や核兵器廃絶、脱原発等の考えを学習し、世界中がこれを実現するまでこの運動は続けていきたいと強く思いました。

